中国語学習者に関する一考察

── 明治学院大学と目白大学の比較 ──

竹　中　佐英子

要　旨

本稿は明治学院大学の中国語履修者と目白大学外国語学部中国語学科の学生を比較することを通じて，明治学院大学の中国語履修者の特徴を探り，明治学院大学の中国語教育に対し提言を行う。

キーワード：基礎学力，学習技法，家庭教育，知的好奇心，精神力

1. テーマ選定理由

筆者は東京都新宿区にある私立目白大学（以下，「目白」）外国語学部中国語学科（以下，「C 科」）の有期雇用講師である。C 科は平成 17（2005）年 4 月に開学，中国語を主専攻とし，1, 2 年次生は中国語（作文，読解，会話）の授業が週 6〜7 こま必修である。平成 20（2008）年 4 月〜，筆者は明治学院大学（以下，「明学」）横浜校舎の国際学部（以下，「国際」）「中国語 1 A 2 A/1 B 2 B」と，経済，芸術など複数の学部の学生が履修する「中国語研究 2 A/2 B」（以下，「研究」）を担当するようになった。

国際，研究と C 科の中国語学習成果の違いを調査するため，平成 20 年度春学期，中国語学習歴 1 年目の国際では C 科 1 年次生用初級作文，学習歴 2 年目の研究では C 科 2 年次生用中級読解と同一の教材，教授法を用いて同一の学習事項を教授し，同一の期末試験，実力試験を持ち込み一切不可で実施した。資料 1 は初級作文期末試験，資料 2 は中級読解期末試験，資料 3, 4 は実力試験の問題である。実力試験は期末試験と同時に行い，筆者の授業では一切教授していない中国語圏に関する時事問題（資料 3, 択一式および人名記述）と，基礎学力問題（資料 4, 日本語漢字読み書きと一般常識）を出題した。表 1 は国際，研究，C 科 1, 3 期（表 2 参照）の期末試験と実力試験の平均点である。なお，国際は中級読解，研究は初級作文の期末試験，C 科 1 期は基礎学力試験を実施していないので，平均点が空欄になっている。

【資料 1】 次の日本語をそれぞれ中国語にし，ピンイン（拼音）と簡体字で表せ。

⑨　現在私は大学で中国語を勉強している。

【資料 2】 以下の中国語の文を日本語に訳せ。

②　在闷热的夏天，突然下一场大雨，实在很舒服。

【資料 3】 ①〜⑳の空欄に当てはめるのに最もふさわしい語句を解答群の中から 1 つだけ選び，その記号を解答欄に記入せよ（ただし，1 単語につ

き１回だけ使うこと)。更に，A, B の空欄に当てはめるのにふさわしい人名（漢字フルネームで満点）を解答欄に記入せよ。

日本の（Ｂ）首相は 2007 年 12 月 27 日～30 日，中国を訪問し，国家主席の（Ａ）氏，（７）の呉邦国氏，（８）の温家宝氏ら，中国の指導者と会談した他，数多くの日本企業がある直轄市のひとつ・（９）の経済開発区を視察，また(10)がある山東省・曲阜も訪れた。

【資料４】 ①～③の漢字はその読み方，④～⑥のカタカナはその漢字表記，⑦～⑪の空欄は当てはめるのにふさわしい数字，文字，語句を記せ。

① 金銭出納簿。

⑤ ガンチクのある言葉。

⑦ 52－4×3＝（　　）

⑪ ヨーロッパ諸国の通貨単位は（　　）である。

国際も研究も１週当たりの中国語の授業時間数がＣ科より少ない（表２参照）にも関わらず，期末試験の平均点はＣ科３期初級作文以外，国際，研究の方が高い。また，Ｃ科１年次生は週１こま必修の「現代中国入門」で中国事情を学んでいるが，中国語圏時事問題の平均点も国際，研究の方が 0.4～1 点高い。基礎学力問題に至っては国際，研究の方がＣ科３期を 1.9～3 点上回っている。この結果は国際，研究の方がＣ科より基

表１　各試験のグループ別平均点

	国　際	研　究	Ｃ科１期	Ｃ科３期
初級作文期末試験（100 点満点）	81 点		73 点	85 点
中級読解期末試験（100 点満点）		84 点	72 点	76 点
中国語圏時事択一（ 20 点満点）	8.7 点	8.7 点	8.3 点	7.7 点
中国語圏人名記述（ 10 点満点）	2.9 点	2.2 点	3.8 点	3.4 点
基　礎　学　力（ 12 点満点）	8.9 点	10 点		7 点

表２　調査対象の内訳

	国　際	研　究	Ｃ科１期	Ｃ科３期
入学年度	平成 19 年	平成 19 年	平成 17 年	平成 19 年
偏差値	56	54～56	40	40
総数	29 人	10 人	27 人	26 人
第一志望入学者	14 人（48%）	3 人（30%）	0 人（0%）	8 人（31%）
中台	2 人（6.8%）	0 人（ 0%）	0 人（0%）	6 人（23%）
入学決定理由（複数回答可）	1. 学びたいことが学べる（22 人，76%） 2. カリキュラムが良い／他大学合格校無（各 8 人，28%）	1. 学びたいことが学べる／学内施設が良い／他大学合格校無（各 3 人，30%）	1. 他大学合格校無（12 人，44%） 2. 通学しやすい（8 人，30%）	1. 先生，親族が入学を勧めた（8 人，31%） 2. 学びたいことが学べる（7 人，21%）
中国語学習歴（平成 20 年で）	中台以外 1 年目	2 年目	4 年目	中台以外 2 年目
1 週当たりの中国語授業時間	週 4 こま	週 1 こま	週 6～7 こま	週 6 こま

礎学力が高く，中国事情をよく理解し，中国語学習成果を上げていることを示している。この理由を解明し，明学の中国語履修者の長所を更に伸ばす教育を行えば，明学の中国語教育は飛躍的な進歩を遂げることができるだろう。

そこで本稿は国際，研究とＣ科の中国語学習方法，日常生活の違いを比較，明学の中国語履修者の特徴を探った上で，明学の中国語教育が歩むべき道を考える。

2. 調査方法の紹介

本章では国際，研究，Ｃ科 1, 3 期に対して行ったアンケート調査の結果を分析し，明学の中国語履修者の特徴を探る。

2.1　調査対象

表 2 は調査対象の人数，中国語カリキュラムなどを示したものである。「偏差値」は旺文社のインターネットサイト「大学受験パスナビ」を参照している。「第一志望入学者」とはアンケート調査で「明学／目白が第一志望」と回答した学生，「中台」とは親族に中国語母語話者がいる学生である。「入学決定理由」は各調査対象の上位 2〜3 項目を紹介している。

偏差値は国際，研究（経済など）の方がＣ科より 15 ポイント以上高い。明学が目白より授業時間数が少なくても，同一試験の成績が良い（表 1 参照）要因の 1 つは，偏差値（基礎学力）の違いにあると考えられる。第一志望入学者はＣ科が 3 割以下なのに対し，国際，研究では 3〜5 割である。Ｃ科への入学は「他大学合格校無」「先生や親族の勧め」など，消極的であるのに対し，国際，研究（経済など）への入学は「興味のある分野が学べる」という，積極的な理由が第 1 位である。

2.2　調査実施方法

アンケート調査は国際，研究，Ｃ科 1, 3 期生の 4 つのグループを対象に記名式で行った。質問事項とそれに対する選択肢は，教員と学生との対話中に出された意見を中心に作成，回答は選択肢から選ばせたり，自由に記述させたりした。なお，Ｃ科 1, 3 期生に対するアンケート調査は複数回行ったため，調査毎に回答者数が若干異なっている。

3. 調査結果とその分析

3.1　中国語学習

本節では中国語学習に関する回答結果を分析する。

【質問 1】 中国語は興味があって選択した。
【質問 2】 中国語学習は興味が持てる。
【質問 3】 週 4/6〜7 こまは多いとは思うが，そのくらいある方が単語や文型を覚えやすい。
【質問 4】 中国語の授業はよく聴くようにしている。
【質問 5】 中国語の音読練習は大事だと思うので，自分も必ず声を出す。
【質問 6】 先生が黒板に書いたことは必ず自分のノートに書く。

表 3 は質問 1〜6 に「はい」と回答した学生数およびそのグループに占める割合（%）である。Ｃ科 1 期は中国語学習に対するレディネス，興味があまり無く，中国語の授業時間数が多いカリキュラムをさほど評価していないのに対し，国際は中国語学習に対するレディネスが非常に高く，国際，

表 3　中国語学習方法

	国　　際	研　　究	C 科 1 期（18 人）	C 科 3 期（21 人）
質　問　1	25 人（86%）	6 人（ 60%）	6 人（33%）	14 人（67%）
質　問　2	19 人（66%）	6 人（ 60%）	9 人（50%）	15 人（71%）
質　問　3	22 人（76%）	（週 1 こまのみ）	10 人（56%）	17 人（81%）
質　問　4	23 人（79%）	9 人（ 90%）	8 人（44%）	15 人（71%）
質　問　5	23 人（79%）	9 人（ 90%）	11 人（61%）	16 人（76%）
質　問　6	28 人（96%）	10 人（100%）	17 人（94%）	18 人（86%）

表 4　講義が理解できない理由（択一）

	国　　際	研　　究	C 科 1 期（18 人）	C 科 3 期（21 人）
先生の説明がわかりにくい	7 人（24%）	1 人（10%）	7 人（39%）	3 人（14%）
自 分 が 勉 強 不 足	17 人（59%）	8 人（80%）	7 人（39%）	16 人（76%）
自分が勉強が得意ではない	5 人（17%）	1 人（10%）	4 人（22%）	4 人（19%）

研究，C 科 3 期は中国語学習に興味を持ち，国際，C 科 3 期は 1 週当たりのこま数が多いカリキュラムを評価している。C 科 1 期は定員 30 名に対し入学手続き者が 7 名で，「あと数日以内に手続きすればC 科に入れる」と呼びかけられて入学した，目白他学科不合格者が 7 割以上を占める。つまり，中国語学習のレディネスが無い状態で入学しているのである。一方，国際は約 5 割，研究でも 3 割が第一志望入学で（表 2 参照），中国語は複数の外国語の中から選択しての履修である。また，C 科 1 期では「授業をよく聴く」が 4 割，「音読練習に参加する」が 6 割に留まっているのに対し，国際，研究では「授業をよく聴く」「音読練習に参加する」「ノートを取る」が 8 割に達している。国際，研究には中国語のレディネスが備わっており，ごく基本的な授業の受け方も身に付いていることがわかる。

【質問 7】　講義が理解できない理由を，以下の 3 項目の中から 1 つだけ選択せよ。

表 4 は「講義が理解できない理由」を 3 つの選択肢から 1 つ選ばせた結果である。「勉強不足による」と考える学生が研究，C 科 3 期では 8 割なのに対し，国際は 6 割，C 科 1 期に至っては 4 割に留まり，「教員側の不備」と考える学生が国際では 24%，C 科 1 期では 4 割に上る。C 科 1 期は大きく定員割れし，自身の基礎学力，学習技法の欠如を素直に受け入れられない，質の低い学生をかき集めてしまったため，中国語学習成果が上がらない原因をひとえに教員の教え方，学友のやる気の無さに責任転嫁する傾向が極めて強いが（竹中 2007a, pp. 119–120, 竹中 2008a, pp. 99–100, 竹中 2008b, p. 239），この調査から国際にもこのような責任転嫁型思想を持つ学生が潜伏していることがわかる。国際でこの種の学生が増えると，授業秩序が崩壊し，学習成果が低下すると予測される。

3. 2　教員評価

本節では教員評価に関する回答結果を分析する。

【項目１】 相談に乗るなど，学外のことの面倒を見てくれる。
【項目２】 食事会，旅行など，イベントを企画してくれる。
【項目３】 定刻より早く授業を終わる。
【項目４】 宿題，レポートをあまり出さない。
【項目５】 試験，小テストをあまりしない。
【項目６】 欠席が多く，試験の得点が低くても，単位をくれる。
【項目７】 酒類，食事をご馳走してくれる。
【項目８】 容姿が良い。
【項目９】 定刻より遅く教室に来る。
【項目10】 休講が多い。
【項目11】 学習上の誤り，不足を「できなくても仕方ない」と許容する。
【項目12】 私語，携帯電話操作など，授業態度が悪くても注意しない。

表５は「項目 1〜2 のような教員の言動を高く評価する」，表６は「項目 3〜8 のような言動は教員として望ましくない，あるいは教員として必要ではないが，学生としては嬉しく思う」，表７は「項目 9〜12 のような教員の言動は評価できない」と回答した学生数およびそのグループに占める割合（%）である。いずれのグループにも「授業を早めに切り上げる」「試験，レポートを課さない」「容易に単位取得させてくれる」「容姿が良い」教員を比較的高く評価するという共通点がある。一方，C 科 1, 3 期が「相談に乗ってくれる」「イベントを企画してくれる」「ご馳走してくれる」な

表５　高く評価する教員の言動（複数回答可）

	国　　際	研　　究	C 科 1 期（14 人）	C 科 3 期（18 人）
項　目　1	18 人（62%）	5 人（50%）	10 人（71%）	15 人（83%）
項　目　2	8 人（28%）	2 人（20%）	7 人（50%）	16 人（89%）

表６　嬉しく思う教員の言動（複数回答可）

	国　　際	研　　究	C 科 1 期（14 人）	C 科 3 期（18 人）
項　目　3	20 人（69%）	7 人（70%）	11 人（79%）	12 人（67%）
項　目　4	25 人（86%）	7 人（70%）	10 人（71%）	12 人（67%）
項　目　5	17 人（59%）	6 人（60%）	8 人（57%）	10 人（56%）
項　目　6	16 人（55%）	6 人（60%）	10 人（71%）	10 人（56%）
項　目　7	19 人（66%）	2 人（20%）	7 人（50%）	13 人（72%）
項　目　8	23 人（79%）	3 人（30%）	10 人（71%）	15 人（83%）

表７　評価できない教員の言動（複数回答可）

	国　　際	研　　究	C 科 1 期（14 人）	C 科 3 期（18 人）
項　目　9	17 人（59%）	4 人（40%）	5 人（36%）	2 人（11%）
項　目　10	23 人（79%）	5 人（50%）	6 人（43%）	4 人（22%）
項　目　11	17 人（59%）	8 人（80%）	9 人（64%）	2 人（11%）
項　目　12	26 人（90%）	8 人（80%）	9 人（64%）	5 人（28%）

ど，教員本来の業務のとは直接関係のない活動を高く評価しているのに対し，国際，研究は「授業開始時刻より遅く来る」「休講が多い」「学習上の誤り，授業態度を注意しない」教員をあまり評価していない。C 科 3 期に至っては国際，研究と正反対に，こういう教員の方が望ましいと思っている節さえある。この調査結果は，C 科が教員と家族や友人のような関係であることを求めているのに対し，国際，研究は教員に知識を伝授し，矯正を施すよう求めていることを示している。国際，研究の教員は授業技法の更なる研究に努めるべきである。

3.3　高校生活指導

本節では出身高校の生活指導に関する回答結果を分析する。

表 8 は「出身高校でそのような言動をすると教員から注意を受けた」と回答した学生数およびそのグループに占める割合（%）である。国際では「遅刻」「私語」，研究では「授業中，許可なく教室を出る」「教員に対する態度」「服装，髪型」，C 科 1 期では「服装，髪型」，C 科 3 期では「授業中の私語」で注意された割合が高い。懸念されるのは，いずれのグループでも「無断欠席」「無断早退」「授業中，教室内を立ち歩くこと」に対してさほど注意を受けていないことである。理由は 2 つ考えられる。1 つは学内にそのような行動をする生徒がいなかった，もう 1 つは生徒がそのような行動をするのが当たり前だった，という可能性である。前者であれば全く問題ない。しかし，目白では定員確保を重視しているため，後者のような高校出身の学生が少なくない。今後，明学に後者のような高校からの進学者が増えると，教員は授業で勉強を教えながら，授業を受ける際の最低限のマナーまでも指導しなければならなくなり，授業進行が極めて困難になるだろう。

3.4　家　　庭

本節では家庭に関する回答結果を分析する。

【質問 8】 家族とよく話をする。

【質問 9】 予定時刻迄に帰宅できない時，メールや電話で家族に連絡する。

【質問10】 家で年長者（両親，祖父母など）からよく叱られる。

【質問11】 家の年長者（両親，祖父母など）は愛情深い。

表 8　高校時代，教員から注意を受けた言動（複数回答可）

	国　　際	研　　究	C 科 1 期（14 人）	C 科 3 期（18 人）
無断欠席	12 人（41%）	2 人（20%）	4 人（28%）	8 人（44%）
遅刻	21 人（72%）	4 人（40%）	5 人（36%）	10 人（56%）
無断早退	11 人（38%）	5 人（50%）	6 人（43%）	5 人（28%）
授業中の私語	18 人（62%）	5 人（50%）	5 人（36%）	13 人（72%）
授業中，教室内を立ち歩く	11 人（38%）	5 人（50%）	6 人（43%）	6 人（33%）
授業中，許可なく教室を出る	7 人（24%）	6 人（60%）	5 人（36%）	7 人（39%）
教員に対する言葉遣い，態度	10 人（34%）	8 人（80%）	4 人（29%）	6 人（33%）
服装，髪型	14 人（48%）	7 人（70%）	8 人（57%）	8 人（44%）

表 9 は質問 8〜11 に「はい」と回答した学生数およびそのグループに占める割合（%）である。「家族とよく話をする」「予定時刻迄に帰宅できない時，連絡する」のは研究，「両親からよく叱られる」のは国際と研究，「両親が愛情深い」のは国際とＣ科 3 期である。質問 10 の結果に注目したい。国際，研究にも授業中居眠りする，突然教室を出て行くなど，授業態度が良好でない学生はいるが，注意すると「すいません」と謝り，止める。一方，Ｃ科では 90 分間机に突っ伏して寝る，離れた座席の学生同士大声で私語をし，筆記用具を投げ合う，「他人に迷惑がかかるから，退出しなさい」と注意すると，「オメー，俺の親が払った学費から給料もらってるくせに，出てけなんて言えんのかッ」と逆切れする。この調査結果から，Ｃ科があまり家庭でしつけされていないのに対し，国際，研究は自身の非を認めて反省，改善するよう，家庭で一定の教育がなされていることが伺える。

3.5　希望人物像

本節では成りたいと思う人物像に関する回答結果を分析する。

表 10 は「そのような人物に成りたい」と回答した学生数およびそのグループに占める割合（%）である。国際，研究，Ｃ科 1, 3 期とも「控えめ」「物静か」ではなく，「他人を楽しませる」「社交的」な人物に憧れているという共通点がある。一方，国際，研究，Ｃ科 3 期はＣ科 1 期に比べ，「頭が良い」「容姿が良い」「異性に好かれる」といった良質な人物に成りたいと思っていることがわかる。

Ｃ科の学生は基礎学力に限界が有り，努力に見合った成果が出づらい（竹中 2007a, pp. 119–120, 竹中 2008b, p. 238）。また，学内他学科不合格者が 7 割を占めるＣ科 1 期（3. 1 参照）は，目白に入学したことに納得していないことから（2008a, pp. 100–102），心情が屈折しており，「自分は頑

表 9　家族との関係

	国　　際	研　　究	Ｃ科 1 期（19 人）	Ｃ科 3 期（18 人）
質　問　8	19 人（66%）	9 人（90%）	12 人（63%）	11 人（61%）
質　問　9	18 人（62%）	8 人（80%）	10 人（53%）	8 人（44%）
質　問　10	22 人（76%）	8 人（80%）	8 人（42%）	8 人（44%）
質　問　11	23 人（79%）	6 人（60%）	13 人（68%）	13 人（72%）

表 10　希望人物像（複数回答可）

	国　　際	研　　究	Ｃ科 1 期（14 人）	Ｃ科 3 期（18 人）
頭　が　良　い	18 人（62%）	8 人（80%）	6 人（43%）	12 人（67%）
容　姿　が　良　い	16 人（55%）	7 人（70%）	2 人（14%）	9 人（50%）
異 性 に 好 か れ る	13 人（45%）	5 人（50%）	1 人（7.1%）	10 人（56%）
他 人 を 楽 し ま せ る	17 人（59%）	7 人（70%）	8 人（57%）	8 人（44%）
控えめ，他人を引き立てる	7 人（24%）	3 人（30%）	3 人（21%）	6 人（33%）
社 交 的，友 達 が 多 い	21 人（72%）	9 人（90%）	9 人（64%）	12 人（67%）
物 静 か，お と な し い	1 人（3.4%）	1 人（10%）	0 人（ 0%）	3 人（17%）

張ってもどうせダメだ」と考え，努力自体しない学生が多い（竹中 2007b, p. 94）。

明学は偏差値 50 台後半の中堅校である（表 2 参照）。C 科より中国語の授業時間数が少なくても，教授法を工夫し，学生側が努力をすれば，学習成果を上げることができる（表 1 参照）。教員は学生にこの事実を伝え，「頭が良くなりたい」と願う思いを努力の源に変換する指導をすることが必要だろう。

3.6　課外活動

本節では課外活動，アルバイトについての回答結果を分析する。

表 11 は「サークル活動，アルバイトをしている」と回答した学生数およびそのグループに占める割合（%）である。アルバイトをしている学生はいずれのグループでも半数以上である。一方，サークル活動，部活動，お稽古事をしている学生は研究では半数，国際では 8 割以上であるのに対し，C 科 3 期は 4 割，C 科 1 期は 3 割に満たない。C 科のサークル活動は大学非公認のフットサル，麻雀などの同好会で週数回集まり，学友との交流を中心としている。一方，国際，研究では軽音楽，ボーリングなど，サークル活動を娯楽としている学生だけでなく，チアーリーディング体育会，テニス，演劇サークルの大会で良い成績を収めるよう，かなりの労力をつぎ込む学生も見られる。環境保護，東南アジアへの教育支援など，ボランティア活動に取り組む学生も 6 人（21%）いる。お稽古事は英会話，書道，バトントワリングなど，多岐に亘る。

国際と C 科 1 期の課外活動参加状況の違いは，今回の調査結果の中で最も注目に値する。筆者は C 科より授業時間数の少ない国際の方が中国語学習成果を上げている要因を，偏差値（基礎学力）が高いことと，学習時間が長いことにあるのではないか，と予測していた。ところが，今回の調査で学習時間数を尋ねたところ，国際，明学，C 科のいずれも，中国語学習のために割かれる時間は試験前の数日間，あるいは普段の授業の空き時間や通学時間（電車内）だけであった。筆者は，国際の方が C 科よりサークル加入率が高いことは，国際の方が目白よりも良質な，運動なり，芸術なり，何かしらの物事に興味を持つことができる，一定の目標に向けて努力できる能力を備えていることの表れであり，こうした知的好奇心，精神力，気力が中国語の試験勉強でも発揮され，良い成績を収めたのではないか，と分析する。

表 12〜15 はアルバイトの職種，労働量，報酬の用途に関する調査結果である。いずれのグルー

表 11　課外活動状況

	国　　際	研　　究	C 科 1 期（15 人）	C 科 3 期（21 人）
サークル活動，部活動，お稽古事をしている	24 人（83%）	5 人（50%）	4 人（27%）	9 人（43%）
アルバイトをしている	23 人（79%）	7 人（70%）	13 人（87%）	11 人（52%）

表 12　アルバイト職種

国　　際	研　　究	C 科 1 期	C 科 3 期
1.　飲食業（13 人） 2.　パン屋／工事など肉体労働（各 4 人）	1.　飲食業（4 人）	1.　スーパー（3 人） 2.　飲食業／カラオケ（各 2 人）	1.　飲食業（6 人） 2.　コンビニ（4 人）

表 13　1 週当たりのアルバイト日数

	国　　際	研　　究	C 科 1 期（13 人）	C 科 3 期（11 人）
1〜2 日間	4 人（14%）	0 人（ 0%）	1 人（7.6%）	1 人（ 9%）
3 日間	8 人（28%）	3 人（30%）	3 人（23%）	4 人（36%）
4 日間	9 人（31%）	2 人（20%）	0 人（ 0%）	3 人（27%）
5 日間以上	2 人（6.9%）	2 人（20%）	9 人（69%）	3 人（27%）

表 14　1 回当たりのアルバイト時間数

	国　　際	研　　究	C 科 1 期（13 人）	C 科 3 期（11 人）
〜6 時間	8 人（28%）	3 人（30%）	2 人（15%）	3 人（27%）
〜8 時間	8 人（28%）	3 人（30%）	3 人（23%）	4 人（36%）
〜12.5 時間	7 人（24%）	0 人（ 0%）	5 人（38%）	3 人（27%）
〜18 時間	0 人（ 0%）	1 人（10%）	3 人（23%）	1 人（ 9%）

表 15　アルバイト報酬の用途（上位 3 項目，複数回答可）

国　　際	研　　究	C 科 1 期（14 人）	C 科 3 期（18 人）
1.　遊興費（23 人，79%） 2.　昼食／書籍 DVD／衣類化粧品（各 18 人，62%）	1.　遊興費（8 人，80%） 2.　書籍 DVD（7 人，70%） 3.　昼食（6 人，60%）	1.　昼食（10 人，71%） 2.　書籍 DVD（8 人，57%） 3.　交通費（7 人，50%）	1.　昼食（12 人，67%） 2.　遊興費（11 人，61%） 3.　書籍 DVD／衣類化粧品（各 10 人，56%）

プでも，職種はウェイター，ウェイトレスが多く，報酬は主に昼食，遊興費，書籍，衣類に使う，といった共通点が見られる。国際，研究と C 科の相違点に注目したい。C 科 1 期は深夜営業の居酒屋，カラオケ店勤務が 4 人いるのに対し，国際では早朝のパン屋勤務が 4 人いる。C 科 1 期では週 5 日間以上労働が 7 割，1 回当たり 13〜18 時間労働が 3 人いるが，国際，研究，C 科 3 期では週 3〜4 日間労働が 5〜6 割を占め，研究，C 科 3 期では 1 回当たり 13〜18 時間労働が 1 人，国際はゼロである。この調査結果から，国際，研究は全般的に C 科に比べてアルバイト量を制限している傾向が見られるものの，一部にアルバイト量が過剰に多い学生が存在することもわかる。

アルバイト量と大学生活の充実度は反比例する。C 科 1 期は興味をもって取り組めることが無い。そこでアルバイトをし，顧客に感謝され，報酬を得ることで，中国語学習や大学生活では味わえない達成感を味わい，大学受験に失敗した挫折感，中国語学習成果が上がらない屈辱感，大学生活に対する不満を解消する（竹中 2007a, p. 126）。しかし，連日深夜迄アルバイトをする学生は確実に授業の出席率，単位取得率に支障をきたす。4 年次に卒業できないと判明してから，教員に怒鳴り込むが，卒業に必要な単位がそろっていない以上，学校側は何の策も講じることはできない。アルバイト量が過剰に多い明学の一部の学生に対しては，ゼミ担当者などから警告が必要である。

3.7　携帯電話，喫煙，飲酒

本節では携帯電話使用，喫煙，飲酒に関する回答結果を分析する。

表 16 は携帯電話使用状況，表 17 は喫煙，飲酒習慣に関する調査結果である。1 カ月当たりの携

表 16　1 カ月当たりの携帯電話使用料金

	国　　際	研　　究	C 科 1 期（15 人）	C 科 3 期（21 人）
～ 6,000 円	9 人（31%）	4 人（40%）	0 人（ 0%）	2 人（9.5%）
～ 8,000 円	2 人（6.9%）	1 人（10%）	1 人（6.6%）	5 人（24%）
～10,000 円	11 人（38%）	4 人（40%）	7 人（47%）	7 人（33%）
～20,000 円	7 人（24%）	1 人（10%）	3 人（20%）	5 人（24%）
～30,000 円	0 人（ 0%）	0 人（ 0%）	0 人（ 0%）	1 人（4.7%）

表 17　喫煙，飲酒習慣

	国　　際	研　　究	C 科 1 期（27 人）	C 科 3 期（26 人）
タバコは吸っていない	26 人（90%）	10 人（100%）	13 人（48%）	15 人（58%）
お酒はあまり飲まない	20 人（69%）	6 人（ 60%）	7 人（50%）	12 人（67%）

帯電話使用料は，いずれのグループでも 1 万円が最も多い。国際，研究では 6,000 円以下も 3～4 割いるのに対し，C 科 1 期はゼロ，3 期は 2 人である。C 科では再三「授業中は携帯電話操作禁止」を指導しているが，どうしても止められない。一方，国際，研究の大部分はチャイムが鳴ると，教員が何も言わなくても自ら携帯電話をかばんの中にしまう。喫煙率は C 科 1, 3 期が 4～5 割程度，国際は 1 割，研究はゼロ，飲酒率は全グループ 3～5 割である。この調査結果から，国際，研究，C 科では携帯電話使用料金，喫煙率には大きな差があるが，飲酒習慣にはあまり差が無いことがわかる。

4. 分析結果の総括

以上，国際，研究，C 科の中国語学習，日常生活の違いを調査，比較したが，明学の中国語履修者には以下のような特徴が見られる。

⑴　中国語学習動機が高い。

⑵　基本的学習技法を身に付けている。

⑶　教員に学習，言動の誤りを矯正するよう，求めている。

⑷　家庭教育がなされている。

⑸　学力，技能向上を願う。

⑹　趣味，打ち込める活動がある。

⑺　携帯電話，喫煙に依存しない。

5. 今後の研究課題

以上の分析結果に基づき，今後の明学（の中国語教育）の研究課題として，以下の 2 項目を提案する。

⑴　教授法，カリキュラムの再考。C 科の学生が基礎学力の欠如により，教育，指導による改善，向上が困難であるのに比べ，明学の中国語履修者は一定の基礎学力，学習意欲，向上心を備え，教員の忠告にも比較的素直に耳を傾けるので，良好な教授法を用いれば必ず学習成果を出すことができる。これは明学の学生の長所であり，筆者はこの長所を伸ばすため，以下のような試みを行っている。毎回授業終了 10 数分前，その回の授業で扱った内容を問う小テストを行う。定期試験はこの小テストから出題する。授業を真剣に受け，きちんと復習すれば，必ず得点が取れることを実感させる。成績優秀者は皆の前で表彰し，副賞に北

京五輪グッズ，中国語の雑誌などを授与し，自尊心をくすぐる。明学の学生を更に一歩上のレベルへと引き上げるため，今後も様々な試みを実施し，効果的な教授法を探究するつもりである。また，国際2年次生は週4こま中国語が必修であるが，筆者と同一クラスを週2こま担当している中国人教員とは授業進度，学習事項などの情報の共有が必ずしも充分ではない。まずは同一単語が登場する，文法事項の学習順序が似通っている，関連性のある教材を用いることを提言したい。可能であれば，専任，非常勤が互いに教学状況を報告し合える定期的な会合が開かれるよう，希望する。

⑵　問題学生の発見。明学の中国語履修者は概ね，素行に大きな問題はないが，一部には自身の非をあまり省みない（3.1参照），アルバイトに過剰に精を出す（3.6参照），といった学生も存在する。目白ではこのような学生が多く，授業秩序が乱れ，学習成果が上がりづらい。明学でも問題のある学生に対しては適切な指導が必要である。例えば，科目担当者からゼミ担当者，学生指導部門などに報告する，場合によっては行動に警告を行う。同時に，大学全入時代に良質な学生を獲得する入学者選抜方法も考えなければならないだろう。

参考文献

竹中佐英子 2007a.「中国語専攻に関する一考察（二）」，『目白大学高等教育研究』第13号，pp. 115-127

竹中佐英子 2007b.「大学はどこまで学生を教育することができるのか？」，『人と教育』創刊号，pp. 92-98

竹中佐英子 2008a.「中国語専攻に関する一考察（三）」，『目白大学高等教育研究』第13号，pp. 91-104

竹中佐英子 2008b.「中国語の学習成果を左右する要素の分析」，『目白大学人文学研究』第4号，pp. 229-241